

鹿児島医セン

連携室だより

2006.9 No. 6

鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）

鹿児島医療センターは増・改築工事を終了し、 新たな出発をします

5年前に始まった当院の増・改築工事がこの8月やっと終了しました。工事中は患者さんをはじめ皆さんに大変ご迷惑とご不便をおかけしました。コンクリート壁の破壊など大きな騒音を伴う工事も含まれおり、本来なら静かな環境で療養して頂きたい入院患者さんにも大変御迷惑をおかけしました。重ねてご協力頂いた皆さん、また、大きな事故もなく無事、工事を修了して頂いた工事関係者の皆さんにも感謝したいと思います。

一連の工事で、4階建て西病棟の新築、外来部門の増改築、本館部門（現在東病棟と呼んでいる）の全面的リニューアル、4階建て駐車場、医師住宅の新築などを行いました。新築しました西病棟2階に7室の手術室、東病棟2階には16床のICUが出来ました。ICUは62名の看護師を配置し、夜間も8名の看護師が勤務しています。全国146国立病院機構の病院の中では最大の規模を有し、多くの救急患者さんの受け入れが可能な体制になりました。外来部門は一部増築し、広くて明るい外来が出来ました。外来エントランスホールには熱帯魚の水槽を置き、東病棟8階に桜島の景観を楽しみながら食事を取って頂けるようにレストランを作り、癒しのスペースを作りにも配慮しました。また、4階建て駐車場を整備し、約300台駐車出来るようにしました。出来上がってしまいますといろいろの意見はありますが、それなりにいいものが出来たと思っています。

ハード面の整備とともに病院の機能充実も合わせて推進してきました。平成18年4月には病院名を「九州循環器病センター」から「鹿児島医療センター（循環器・がん専門施設）」に変更し、「循環器、脳卒中、がん」の3本柱で診療している実態を反映した病院名にしました。こう

した病院の方針が周りの皆さんにご理解を頂き、昨年、診療機能の著しく低下した耳鼻・咽喉科、消化器内科、放射線科の復活、糖尿病・内分泌科の新設、更に地域医療支援病院（H18.3）、がん診療連携拠点病院（18.9）の指定にもつながってきました。装置面では平成17年4月に32列（64スライス）CT、18年8月には新たにパイプラインの血管造影装置（計3台となった）を導入、12月にはMRIの装置も新しくします。しかし、オーダリング等まだまだ整備を要する装置が多数あります。

良質な医療の提供ためには、患者さん一人ひとりに病院全体が知恵を出して最善の診断・治療がなされるべきであると考えています。平成17年11月より、月1回、病院全体で総合カンファランスが始まりました。全ての診療科のスタッフが出席し、更に工夫すべきことはなかったかと率直に議論しています。感染症の予防と治療を目指す感染症コントロールチーム（ICT）、栄養サポートチーム（NST）、医療安全委員会などは「熱心に地を這うような活動」をしています。



（正面玄関）

この一連の整備に要した費用は約70億に達します。旧国立病院だから、国の補助、税金でやっているように誤解をしている向きもありますが、残念ながらどこからも全く援助はありません。完全な独立採算でやっています。この借金を返していかなければなりません。辛い道なのですが、良質の医療を提供することで経営を改善し、乗り切っていくしかありません。また、当然ですが、建物、装置が新しくなって、それで良質な医療が提供できるわけではありません。日々進歩する技術の習得、患者さんに貢献するのだという「志の高さ」、全体的にレベルを上げて、地域医療に貢献したいと思っています。今後とも宜しくお願いします。（病院長 中村 一彦）



(8Fレストラン)



初期研修医達を迎えて



循環器科部長
皆越 真一

研修医制度がスタートして3年目を迎えました。研修期間は医師としての姿勢が培われる大変重要な時期ですが、当院では現在5名の研修医が研修を行っております。当院はこの4月より、「鹿児島医療センター」に病院名を変更

し、循環器病とガンの専門施設として新たなスタートをきりました。年間、心臓カテーテル検査 1600 例、冠動脈形成術約 600 例、心臓手術（開心術）240 例、急性期脳梗塞 200 例、脳外科手術 114 例、造血腫瘍 100 例など豊富な臨床例を有しています。さらに放射線治療、がん化学療法の専門家、内分泌・糖尿病の専門医などが診断・治療に当たっています。昨年より新設されました 16 床の ICU (62 名の看護師を配置した救急病棟) は、いつでも急患に対応すべく体制を整えています。当院は忙しく、過酷な現場ではありますが、研修医に対しましては、大学病院、その他で教育・研究に従事した経験を持つ指導医が多数そろっており、指導も十分出来る体制にあります。このような中で患者さんと真摯に向き合い、真に患者さんに役立つ臨床医を育てることを目標にしています。平成 16 年が 2 名、平成 17 年度が 2 名、平成 18 年度が 5 名という状態ですが、広い研修医室も完成し、現在図書室やインター

ネットの整備、充実を図っており、充実した研修施設を目指しているところです。

研修カリキュラム

1年目

| | |
|-----|----------|
| 内科系 | 外科系・救急医療 |
|-----|----------|

内科系

循環器内科、脳血管内科、血液内科、消化器内科、糖尿病・内分泌内科、放射線科、救急麻酔科

外科系

一般外科、循環器外科、脳神経外科、耳鼻咽喉科、泌尿器科

2年目

| | | | |
|-------------|----|-------------|----|
| 小児科 地域医療 | 選択 | 産婦人科 精神科 | 選択 |
|-------------|----|-------------|----|

産科(今村病院、指宿病院)

小児科(鹿児島こども病院、鹿児島市医師会病院)

精神科(谷山病院、伊敷病院)

地域医療(里村へき地診療所、南九州病院)

救急医療(霧島市医療センター)

整形外科(米盛整形外科)

鹿児島大学病院(選択)

研修風景

先輩の知恵を学ぶ



ICU (16床)



レントゲン読影を学ぶ



血液内科

幹細胞処理



心臓超音波検査を学ぶ



心臓外科手術



心臓カテーテル検査



職場紹介 シリーズ15 (東7階病棟)

東7階病棟は、平成18年度より従来の第1循環器内科に糖尿病・内分泌科が加わり、益々活気ある病棟になりました。病棟スタッフの構成は医師11名、看護師21名、業務技術員2名です。患者様は鹿児島全域に及び、地域病院との連携をもちながら心臓カテーテルの検査入院や心不全、心筋梗塞、狭心症、大動脈疾患、不整脈等の入院を受け入れています。当病棟は急性期医療を中心に疾病の早期回復をめざし、心エコー、心筋シンチ、心臓カテーテル、経皮的冠動脈形成術、ペースメーカー・ICD植え込み、不整脈コントロール等の様々な検査や治療が行われています。その中でも心臓カテーテル検査・治療は年間約1000件実施しています。患者様が安全に安心して検査や治療ができるようにチームスタッフ全員誠意を持って援助させて頂いています。スタッフステーションのカウンターには所狭しと心電図モニターが並び、常に25名前後のモニターが稼働しています。24時間体制(2交替)で患者様を守る看護師は、早期に異常をキャッチできるように、常にモニター波形に注意を払い観察しています。又、糖尿病科におきましては、まだ患者数は少ないですが、教育入院やインスリン導入目的とした入院



スタッフ

を受け入れています。現在、糖尿病教育入院のクリニカルパスの導入や院内における糖尿病教室の開催に向けて準備中です。

循環器病と糖尿病という生涯コントロールを必要とする患者様に対して、スタッフ全員が「退院後の患者様の生活に興味を持とう!」をスローガンに、受持看護師が中心となり薬剤師や栄養士と協力して個別的な指導を展開しています。しかし、患者様の高齢化やリスクファクターにより、合併症を持つ人が多く、単疾患でスムーズに退院できる人が少なくなってきました。患者様のゴールを早期に設定し、地域医療連携室と共に、病病・病診連携を図り、患者様の求める医療が提供できるように取り組んでいきたいと思ひます。そして看護の質の向上と、循環器病専門看護師の能力を全員が兼ね備えられるように、日々研鑽し、患者様からの学びを糧に前進していきたいと思ひます。

(看護師長 深川 俊子)



お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター (循環器・がん専門施設)

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号
 (代)TEL 099 (223) 1151 FAX 099 (226) 9246
<http://www.kagomc.jp>
 脳卒中ホットライン ▶▶ 090-3327-5765

〈地域医療連携室〉 濱田、岩下、石井、中島、田添、善福
 直通電話 ▶▶ 099-223-4425
 フリーダイヤル専用FAX ▶▶ 0120-334-476
 ※休日・時間外は当直者で対応します。

